（株）コモリファーム

古森　憲さん

小竹町

紙マルチと天然塩で
美人を育む！！

小竹町で有機農業に取り組む古森さん。古森さんのお父さんが２３年前にそれまでの慣行栽培に疑問を感じ、知人から佐賀県武雄市で天然塩を活用して有機農業を実施している方を紹介され有機農業を始めることに。

当時古森さんは企業に就職していましたが、多忙で食べることを軽視した結果、体調を崩し退社することとなり、あらためて食の大切さに気付きます。

そしてお父さんが実家で化学農薬・化学肥料を使わない米作りを始めたことを知り、それを継承してもっと多くの人に安心・安全な米を食べてもらいたい思いで有機農業を始めることとなりました。

７年前に法人化し、現在お父さんと２名で水稲を栽培。本年産の水稲作付面積は７.５ha。その内、有機農業は２.５ha。

平成２９年には消費者へわかりやすい、そして信頼できる「安心」を届けたいと考え有機ＪＡＳ認証を取得し、天然ミネラルライス「小さな竹美人」が生まれました。

株式会社　コモリファーム

栽培品目：水稲
経営面積：約7.5ha　スタッフ：2名
販路：通信販売、ふるさと納税

Website
https://komorifarm.com/

有機栽培の概要

1．有機栽培の取組

有機農業に取り組んだ翌年３０a作付けし、４年ほど人力で雑草取りしてみたところ、雑草対策が間に合わず、最初は有機農業は出来ないと感じていたそうです。そのような時に福岡県普及センターから雑草対策として紙マルチ田植機による有機農業を紹介されることに。この田植機は県内で２台しかない（取材当時）珍しい機械。

この田植機により施用した紙マルチが溶けるまでギリギリに浅水管理することにより雑草の発生を抑えることができます。

※紙マルチ田植とは、田植えの際、植付部前方から再生紙を敷設し、その紙を突き破りながら田植えを行なう。敷設された紙が田面への日光の通過を遮断し、田植え後約1ヶ月の間、除草剤を使わずに雑草の伸長・繁茂を抑えることができる。

2．こだわりポイント

病害虫対策や食味重視のため疎植としています。

栽培にあたってはメキシコ産の天日塩と、畜産農家からの牛糞たい肥のみを使用して生産しています。

天然塩は基肥として田植え前にある程度、高濃度で1回、出穂後に１回、水に溶かすことなくそのままで散布しています（量は企業秘密です）。

以前、周辺の慣行栽培にウンカが発生した際、天日塩は害虫に対する忌避効果あるようで、古森さんの田んぼにはウンカは発生しなかったことも。

経営面の取組･工夫

コモリファームでは通信販売やふるさと納税での直接販売としています。商社や企業からの声掛けはなく、どうマッチングするかが課題とのことです。

最初はSNSによる宣伝を広告塔と考え投資した結果、徐々に顧客を増やしていきました。

個人へ販売する場合、自分でパック詰めし、包装資材、梱包するのに時間が取られるため、それなりの価格で売っていく販売ルートをどう確保するのかが最重要課題。もっと消費者に生産にかかる費用を理解してもらうことが大切と考えています。

紙マルチ田植機

今後の展開

有機農業を拡大したい思いはありますが、２名で紙マルチ田植をやれるのは現状の面積が限界とのこと。紙マルチ田植は経費と労力がかかるそうで、紙マルチは長さが100ｍで、１反当り６本必要。さらに田植機はマルチ敷設と田植え作業を同時に行う一体型のため、普通の田植機より非常に高価。紙マルチは重く、田植機にマルチを２本積んでいるが、交換が大変だそうです。

また、面積拡大についてはドリフト問題や地域で３年ごとにブロックローテーションで麦や大豆を作付けしなければならない制約があり、有機農業の圃場は固定していることから、これ以上増やせないそうです。

今後は、生産した米を使った離乳食やパックご飯、甘酒等の六次産業化も検討中です。

圃場耕起の様子
（写真はHPより）

もっと聞いてみました！

Q. Uターンしてよかったですか？

A. 地元だし、住む場所も実家だったので、引っ越し前の準備が楽でした。同級生がたくさんいたので、心強かったというのもありました。町役場に転入届を提出しに行った時、窓口で対応してくれたのが幼稚園からの同級生で、「おお、久しぶりだね！」って。高校まで一緒だったので、すぐに意気投合しました。それが、今の妻です（笑）。

Q. これから始める人に一言？

A. 土地代の一部負担や農機具の貸し出しなど初期投資を軽減できる支援が活用できると、農業を始めやすくなると思います。就農後は、“販売ルートの確保”が重要です。頑張って作っても、売れないことには生活していけないですからね。
あと土づくりも年数が必要です。

Q. 小竹町ってどんな町ですか？

A. 福岡県の北部地域に位置するのんびりとした田舎町です。 かつて石炭の町として栄えた小竹町ですが、田園地帯の下には坑道が縦横に走り、 以前は田畑を作っても陥没するという時代が長く続きました。結果、緑豊かな地域ですが米作りが盛んとはいえません。そんな町で、毎日、毎年、試行錯誤しながら「安心」かつ「おいしい」米を作るため、 日々頑張っています。 また、田んぼには稲作をするという役割だけがあるのではありません。 田んぼは日本の環境を守る一端を担っていることを自覚し、 誇りを持って仕事をしています。

Q. 商品名「小さな竹美人」の名前の由来は？

A. 家族で考えていた時に、ふと「竹美人」というワードが浮かび、そこから小竹町にちなみ、さらには優しい感じの「小さな竹美人」という名前に決めました。

安心の、おいしいごはんを食べよう
小さな竹美人
天然ミネラルライス